

お取引先様各位

災害援助物資配達模様の写真掲載

拝啓 平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

3 月 24 日(木)~3 月 26 日(金)に実施しました、東北地方太平洋沖地震に対する災害援助活動について、現地への配達模様、被災地状況の写真を一部掲載させていただきます。

3 月 23 日(水) PM 12 時 アントレックス新宿本社前にてトラックへの積み込み模様



3 月 24 日(木)午前 12 時 40 分にアントレックス本社を出発し、下記の災害対策本部へ配達。

■ 24 日(木)午後 9 時 30 分 宮城県牡鹿郡女川町 総合体育センター 災害対策本部



■ 25 日(金)午前 11 時 30 分 岩手県陸前高田市 市立給食センター 災害対策本部



<被災地状況>

■宮城県牡鹿郡女川町



■岩手県陸前高田市



この他にも現地の模様を写真に撮り、WEB にアップしております。よろしければ閲覧ください。

アルバムの URL : <http://30d.jp/shun-goto/1>

合い言葉 : MISSION

(注意) 写真の掲載は 2011 年 4 月 26 日までとなります。

皆様の思いを込めた物資は、確かな一助になると思います。

また、今回ご協力頂きました方々の御名前と具体的な支援物資内容を当社ホームページに掲載させて頂きました。

皆様、ご協力ありがとうございました。

■今回の当社被災地支援活動について「織研新聞(H23.3.30)」にて掲載されました。

2011年(平成23年)3月30日 水曜日 総合 (2)

MOF仙台港の駐車場には泥がこびりつき、押し流された樹木や車も散乱

被災地・仙台から

48店を展開しているみやぎ年協は、26日現在で38店が営業を再開した。津波の被害を受けた店もあり、アルバイトを含め約8000人の従業員中、25日現在、16人の安否が確認できていないという。さらに、産商品の多い生協にとっ

大手食品スーパーのコークベニマルも170店中41店(福島県23店、宮城県15店、茨城県3店)が25日現在、営業できていない。福島県の店には原発事故に伴う避難勧告の6店も含まれており、全店営業にはかなりの時間がかかりそうだ。特に宮城県では物流センター

小売業の真価発揮へ復旧急ぐ

EMARシェは隣接の東彩ビル4階で営業中

下したという。このため、営業は店先でイオンが食料品などを販売している。エアリアよりさらに海岸部に近い仙台港周辺に目を移すと、状況は一変する。仙台港は08年9月オーブンの三井アウトレットパーク仙台港をはじめ、ニトリや東京インテリア家具、さらにはユニクロ、オキーンターナショナル、コナカなどの衣料専門店も集積、シヨックはビッグソールとしても急成長していた。

三井不動産によるこの一帯を「腰高の位置から」の津波が襲った。アオキーンターナショナルの正面入り口には今もくづいて津波の跡が残されている。70号ほどの高さ三井アウトレットパークの周辺道路には、スクラップと化した車や、根こそぎ津波にさらわれた樹木が散乱している。幸いこれらの店では従業員や顧客の人的被害はなかったようだ。時期は未定だが、安全点検をした上で、出来るだけ早い時期に再開したい」という点

東北自動車道も復旧し、物流体制も徐々に改善されている。暮らしに欠かせない商業施設が機能しなければ、社会全体の安定もあり得ない。小売業の真価が問われている中で、関係者は未曾有の災害の克服へ、全力で復旧に取り組んでいる。(流通ジャーナリスト・白藤孝二(仙台在住))

このほか、仙台聖港に近いイオンモール取エアリアは、かろうじて津波の被害を免れたものの、従業員の話では上層階(3階)の一部天井が落

スニーカー200足 被災地に寄付

神戸のライオン

婦人靴メーカーのライオン(神戸、藤本寿一社長)は、被災地の仙台にスニーカーと子供靴、婦人靴を寄付する。すでに先週、スニーカー200足を配達済みで、今週は子供靴100足と婦人ブーツ100足を送る予定。今後も、要望に合わせて靴を送る準備があるという。

23年創業の同社は、16年前に阪神大震災を経験。いろいろな人に支援していただき、復興する事ができた。今度は、自分たちが困っている人の助けになりたい」という思いから寄付を決めた。

同社が仙台の取引先から聞いた話によると、「現地では被災地で歩いている被災者が多く、危険なので、靴が求められている」という。

支援プロジェクトでチャリティー「モバコレ」

千趣会グループのファッション販売サイト「モバコレ」は24日からパソコン、携帯電話向け双方向で「カールズ・エイド・ジャパン」が取り組んでいる。

ほかに取引先や店頭の顧客などから集まった食料から生活必需品を運んだ。今回は第2弾で今後も計画している。

復興への決意

●仙台現状と見通し

工場に被害はありましたが、スタッフ全員の無事何よめでした。建物や設備の代替はできませんが、人材は代えがたいものです。余震

どん底から復興の先駆

が続く中でも若い現場のスタッフが被災した工場の整理や協力工場への仕事の振り分けなど復興に向け尽力しています。社長は、地震直後から京都で新工場の設立に走っています。財産はあるプリントの版8000枚はほぼ無事で、東京事務所のデータイン機能も生きています。当社はセレクトショップのOEM(相手先ブランド)による生産を主体に、手作りのシルクスクリーンによるTシャツを企